第2回千葉県環境研究センター基本計画検討会議における意見と対応

参考資料2

NO	発言委員	発言（要約）	関連資料	関連ページ	対応
1	石川委員	働きやすい環境であることが人材確保の上でも重要。良い場所で良い仕事をしてほしい。	資料	全般	御意見に沿って、調査研究や執務の環境が整った魅力的なセンターとなるよう、先進事例を機能や性能に取り入れるとともに、センターの職員に対するヒアリングを重ねることにより本計画の検討を進めてまいりました。
2	近藤座長	新たな施設を80年間使う間に、社会の状況、環境に対する考え方は変わっていく。そうした場合に、人と社会との関係性が大事であり、シチズンサイエンス、社会の知恵を活かしていくことが、施設の基本的かつ重要な機能になると思う。	資料	1	御意見の趣旨を踏まえ、「基本計画策定の背景（p.1）」に社会の状況や環境に対する考えの変化に対応するため、県民を含むあらゆる外部の主体との交流による知恵の集積が必要であることを記載しました。
3	桑波田委員	最有力候補地が決まったことも踏まえて、基本計画案の本文中「～のシンボルとなるよう先進・意欲的な環境機能の整備を進め～」を「～のシンボルとなるよう立地を活かし、先進・意欲的な環境機能の整備を進め～」に修正してはどうか。	資料	8	御意見のとおり修正しました。
4	佐々木委員	ネットワーク環境について、充実化はもとよりサーバー等のアウトソーシングを進めて、職員が管理しなくてもよいようにするとよい。システムは使いやすいものとし、データ等も公開しているんな人が議論ができるような、オープンな研究所となるような設備を整えるとよい。	資料	9,10	建物におけるサーバーの整備と併せ、サーバー等のアウトソーシングを進めることを必要な機能に盛り込みました。
5	近藤座長	サーバー等のアウトソーシングについて、依存すると維持更新のコストが高くなる可能性がある。技術者の育成も含め内製化する部分を残しつつ、基本的な部分をアウトソーシングすることも考えられるのではないか。	資料	9	コストやセキュリティなど、様々なメリット・デメリットを踏まえて、どのような形が最適か検討していきます。
6	伊香賀委員	ライフサイクルカーボンについて、11月に開催された関係省庁連絡会議や、評価ツールの公開など、最新の動きを踏まえて記載内容をバージョンアップした方がよい。	資料	12	設計時点での適切な目標設定と評価を行うよう記載しました。
7	伊香賀委員	CASBEEについて、今後国の方針を踏まえたツールの更新が予定されている。設計発注時には最新版のツールを使用してほしい。目標設定については、他事例の相場観から総じて星4つを最低ラインにしつつ、これを上回る提案も求めるのがよいと思われる。全項目について最高ランクを求めると、おそらく予算の面で整合が取れなくなると思う。	資料	12	御意見を踏まえすべての項目においてAランク以上を目標として設定しました。
8	伊香賀委員	掲載されている働く環境、研究する環境についての事例については、より参考になる最新の良い事例があるので、このレベルでよいとの誤解をされないよう、追加等するとよい。今後設計に関して事業者から提案を受ける際には、より良い施設になるような提案を求めるとよい。	資料	18,21	カーボンマイナスを目指した、環境配慮建築のトップランナー事例（戸田建設(株)筑波研究所グリーンオフィス棟）や、壁面太陽光を取り入れた意欲的な事例（東京科学大学環境エネルギーイノベーション棟）を参考事例として取り入れ、高いレベルでの設計提案がされることをより明確に打ち出しました。
9	佐々木委員	EVについて、単なる移動手段ではなく研究に使用するという特性（機材の積込、道の悪いところに行くことがあるなど）を第一に踏まえるべきと考える。	資料	20	「千葉県公用車の電動車導入方針」では、公用車としての機能を備えることを大前提にした上での電動車導入ということが記載されていますが、基本計画においても、このことがわかるような表現にしたいと思います。
10	近藤座長	建築素材としての木材利用は、現時点では耐久性など技術的な課題があるが、今後の課題解消も見据えて先進的な建物づくりということで検討いただきたい。	資料	23	建物の基本性能である機能維持性を確保することを前提に、第4章4.3(1)③(7)（p.23）の方針に沿って、木材の活用を進めていきます。
11	佐々木委員	必要となる上水整備（案2、案3）、市道からの接道（案3）、建築・解体費については、可能な限り定量的に示すのが望ましい。	資料	27、62	上水整備については、案2は敷地内の一部に上水が通っておりさほど費用はかからないと考えられる一方、案3は状況が不明であり、案2よりは費用がかかると考えています。 市道からの接道については、建築基準法を所管する千葉市と協議を進めながら費用を含め検討する必要があり、「第8章 今後の課題」とさせていただきます。 建築・解体費については、最も費用が抑えられる案2の建築費+解体費を1として案1及び案3との比較値を追記しました。
12	廣田委員	コスト管理のしやすさから、要求条件は詰めておいた方がよい。既存施設の要求機能をしっかり整理しておくのが重要。	資料	33～42	センターの職員へのヒアリングにおいて、既存施設の機能を踏まえた新施設の要求機能を諸室ごとに可能な限り詳細に整理しました。

第2回千葉県環境研究センター基本計画検討会議における意見と対応

参考資料2

NO	発言委員	発言（要約）	関連資料	関連ページ	対応
13	近藤座長	総合地球環境学研究所（京都市）では、ワンフロアの執務室としているほかりラックススペース等もあり、調査研究の効率向上につながっているように思う。参考にしてほしい。	資料	34,35,57,58	労働安全衛生規則618条及び事務所衛生基準規則21条に定める必要な休養室を確保するほか、実験室が集中するフロア（2階想定）と執務室のあるフロア（3階想定）には、フロア中央に開放的に研究員が交流できるオープンスペースを設けることにより、気分転換しやすく、かつリラックスしながら業務に取り組める環境の整備を目指しています。
14	桑波田委員	県民が環境について学んだり体験できたりするスペース、県民が活用できるスペースがあるとよい。小中高生を惹き付けるものがあるとよい。	資料	34,58,59	環境学習など県民向けのコンテンツを強化するため、諸室配置において展示・学習・視聴覚のためのスペースを現センターより広く設定しました（140㎡→200㎡）。この空間が千葉県の公害・環境問題の歴史から、最新の動向が学ぶことができ、学生から大人まで活用できる創意工夫にあふれたスペースとなり、県民がセンターを訪れたいという開放的なものとなることを要求条件として、具体的な内容は基本設計において検討していきます。
15	桑波田委員	千葉県の特徴や、環境問題と暮らしと社会のつながりが見える形になるとよい。	資料		
16	桑波田委員	千葉の成り立ちから、公害問題などを経て至った現在のよう歴史が見えるスペースや映像があるとよい。	資料		
17	桑波田委員	県民が環境研究センターを身近に感じて、行きたくなることが大事だと思う。	資料		
18	廣田委員	環境保全のシンボルという意味でも施設のオープン化は絶対に必要。一般の方が使える共用スペース、インターネットではない実物の展示といった教育のための空間などコミュニティ側に立った環境施設という位置付けを具体化してほしい。	資料		
19	石川委員	バリアフリーをしっかりと考えていただくとよい。障害者用のトイレやジェンダーレストイレなども含めて検討してもらえるとよい。	資料	35	御意見を踏まえ、県民と職員の利用頻度が高い1階と3階に多機能トイレを設置します。
20	廣田委員	建物の構造について、コストへの影響が大きい部分ではあるが、BCP（業務継続計画）の観点から免震構造とするのがよいと思う。	資料	45,61	建物構造の検討については、制震、耐震、免震構造の特徴を整理・比較し、特に業務継続の観点を重視して免震構造を採用する方向性としました。なお免震構造に係るコストは、建設単価の1.17倍を想定しています。
21	近藤座長	案2では、駐車場が住宅に面しているが、車の出入口はどこになるのか。	資料	53	極力周辺住宅への影響が出ないように、住宅に面している部分ではなく、庁舎の東側に出入口を設けることを想定しています。
22	近藤座長	案2、案3ともに地盤に大きな問題はないと思う。案2の空き地は昔の谷津の跡であり多少良くないかもしれないが、駐車場として利用する分にはいいと思う。	資料	53	谷津跡である空地側の土地特性や地形の高低差を踏まえ、建築構造物は原則として旧別館跡地、空地は駐車場や太陽光パネル設置場所として活用する土地利用計画としました。
23	廣田委員	案2で、新しい環境研究センターへのアプローチ道路と、五角形の土地の南西に隣接する農林総合研究センター検査業務課の建物（現在も使用中）へのアプローチ道路は、いずれも敷地南側の道路となり、新しい環境研究センターへは、五角形の土地の南東にある三角形の土地の西側または東側を通して入るイメージか。	資料	53	御指摘のとおり計画しています。今後、新たなセンターの建設するに当たり、接道協議の必要があります。
24	近藤座長	千葉県の環境保全のシンボルとなる場所ということ考えると、公害が大きな問題であった時代は市原や稲毛がシンボリックな場所だったが、これからは環境がメインになっていく。緑地などの周辺環境との関係性を考えながら設計できる点に加え、今後数十年で重要課題となるであろう都市と郊外の境界の保全という意味でも、案2はシンボリックな施設を作るには良い場所だと思う。	資料	53,57	御指摘の立地特性を活かし、都市部において自然環境が豊かであり、その自然エネルギーを活用できるシンボリックな施設となることを目指してまいります。
25	廣田委員、近藤座長	建設予定地のロケーションをどう捉えるかは重要な要素だと思うので、まとめておいた方がよい。農林総合研究センターの敷地は広大で高低差があり既存林が豊富だが、その環境を活かして、何も用事がなくてもゆっくり過ごして環境問題について考えることができるとか、地域の人たちが自由に敷地を通り抜けられるとか、敷地全体の環境をどうやって居心地のよいものにするかをコミュニティの立ち位置で考えるに当たって、ロケーションの整理が重要だと思う。公園として、周辺住宅との調和を考慮して整備されている東京都立大学の八王子校舎や、コミュニティの居場所や教育普及を含めた位置づけをしている長野県立美術館などが参考になるのではないか。	資料	53	御紹介いただいた長野県立美術館のコンセプトを参考に、建物に充実した展示スペースを設けるほか、敷地全体は豊かな自然を感じられ、誰もが気軽に訪れることができる公園のような開かれた空間となること目指します。

第2回千葉県環境研究センター基本計画検討会議における意見と対応

参考資料2

NO	発言委員	発言（要約）	関連資料	関連ページ	対応
26	石川委員	農林総合研究センター旧別館の敷地は道路が狭そうなので、バスでの進入路等も考慮が必要。	資料	53	当該敷地は建築基準法に定める道路に接続されておらず、今後南側の市道との接道協議を行う必要があります。 接道協議においてバスやトラック等、通行の可能性がある車両を想定した進入路とするよう検討していきます。
27	桑波田委員	「地中熱等の未利用エネルギーの活用」とあるが、具体的に想定しているものがあれば教えていただきたい。	資料	53,57	太陽光発電設備の可能な限りの設置や地中熱を利用した空調・給湯用ヒートポンプシステムの導入、自然条件を生かした建物の省エネ設計を想定し、計画案に取り込みました（自然光の取り入れによる室内照明の節約や、風の通り道を作ることで換気の効率を高め、空調機器の使用エネルギー消費量の低減）
28	近藤座長	環境省推進のNbS（Nature-based Solutions 自然を活用した解決策）、国土交通省推進のグリーンインフラといった既存の考え方を踏まえた上で、さらに先を行くようなニュアンスが出ると良い。	資料		
29	石川委員	長期間使用する施設なので、維持・更新のしやすさに加え、デザインも飽きの来ないものだとい。	資料	57	本館建物の外構は、機能性を重視したシンプルなものとした上で、第4章必要な性能で掲げたとおり、千葉県らしさを感じられる地域性と、周辺環境と調和した景観性を兼ね備えた、年数を経ても色褪せないデザインを検討します。
30	佐々木委員	執務室については、大きな部屋でパーテーションなどを使って席を仕切り、立てば全体が見渡せて、座れば個室感が出るような配置がよいのではないかと思う。	資料	59	執務室はセンターの全職員がワンフロアで入る構造とした上で、背が低いパーテーションやキャビネットなどの配置により、個室感と一体感が両立することに配慮し、レイアウトイメージを掲載しました。
31	伊香賀委員	予算の観点で、設計に関して国の補助金を活用する想定の提案がなされた場合、補助金額も考慮して採択の是非の検討するか否か、整理しておいてほしい。	資料	61,32	現時点で活用可能と考えられる補助制度を例として「5.2(2)補助制度」に挙げました。工事時点での補助制度は異なっている可能性が高いため、具体額を概算工事費には含めないこととしました。